

2020年度前期オンライン授業に関するアンケート【自由記述（演習系）抜粋】
オンライン授業を実施してよかった点（演習系：全学）
（利便性・反復受講）

1	アプリケーション操作の習得を含む演習だったが、授業動画を繰り返しみることができるため、特に同じような質問があった場合に指導しやすい。動画で見返せる点は学生からもメリットとして上がっていた（授業評価アンケートから）。
2	記録に残ることは繰り返し学習としてよいと感じた。
3	オンデマンドなので前回欠席を気にせず各回を確実に積み重ねができること。
4	意欲的な学生は、常に質問をしてきており、学習効果は高いと思います。
5	自主的学修姿勢が身につけている学生は自分のペースで学修を進めることが可能
6	講義ビデオの視聴回数を見ると、受講者数の最大3倍くらいのカウントが記録されていて、複数回視聴していることも伺えた。
7	復習しやすいところと学生とコミュニケーションを取りやすいところ
8	リアルタイム授業を行いました。録画した動画を後から視聴できるようにしていました。これによって、分からなかったところを何度でも見直すことができます。ただし、実際にそのような復習をしているかどうかはばらつきがあるようです。
9	学生指導にチャットを使った場合、その履歴が残るため、声がけしていない学生や返答のない学生へのサポートが視覚化できる点。
10	図面発表が、大教室だと前方席でも見えない時があるが、画面上ではどの学生も細部までみることができる

（授業の質向上）

1	学生一人一人に対し、理解力の把握をはかれた点。昨年とほぼ同レベルの試験を行ったが、昨年より点数が格段に向上した。
2	チャットでの双方向のやり取りを心がけたことにより、質疑の質が落ちなかった。
3	以下の工夫をしたことで講義全体の質を落とさずに済んだ。 →リアルタイムで実施し、チャットや簡易アンケートを用いた双方向のやり取りの充実を図り、対面講義の臨場感を再現しようと工夫した。 →タブレットを画面共有することで、黒板の板書を再現し、対面講義の臨場感を再現しようと工夫した。 →タブレットの板書を記録し、復習用に配布した。 →模型材料などを大学から配布し、模型製作環境が均質になるように工夫した。"
4	リアルタイムで実施したことで、「大学に入学した実感を得た」、という学生からの意見がある
5	意欲的な学生は、常に質問をしてきており、学習効果は高いと思います。
6	課題の提出率が対面の時より良かった。通信環境が悪いと言う学生もいたが、それでも授業の最終回でとったアンケートでは、後期またオンライン授業であればリアルタイムを希望する学生が90%だった。Teamsでの録画のほかに、毎回板書の様子をビデオカメラで撮影してStreamにUPした
7	対面より学生の集中力が持続する。
8	自宅のPCに演習室と同様の環境を整備するので、自ずからPCに関する知識が身に付く。
9	SPIのテストをWebClassの問題として準備した（採点機能付き）ことで、間違えた問題を満点が取れるまで何度もやり直している学生が数名見られた。意欲のある学生について対応が可能だったのではないと思われる。

(教員にとって)

1	資料を作り込めたこと
2	対面の1-2組みを分けた授業では、他クラスの進度に配慮して解説等の一部を割愛することもあったが、全組共通教材なのでそのような手間が無い。
3	計測器実機画面など、通常授業中では準備が大変な多様な教材を提示できた。
4	やや内容が込み入ったとしても繰り返し視聴などで理解を深められる前提であるので、授業内容を薄めすぎずに提供出来た。
5	自身の講義内容の精査ができる点。学生からの質問が増えた点。
6	パワーポイントに自分の声を録音して動画を作ったが、それを見て自分を授業を見直すことが出来る。Webclassの機能を始めて使い、小テスト機能など、普段の授業でも有効活用が出来ることがあることが分かった。
7	授業内容を記録としてまとめることができた
8	移動の軽減。
9	WebClassに様々な機能があることが分かった。作った動画を自分で見直すことで普段の自分の授業を見直すことが出来た。

(その他)

1	最小限の知識は伝えることができた
2	特に無し。対面に勝るものはないと思います。
3	オンライン授業の進め方が理解でき、今後の特別指導願、猛暑や厳寒等への対応方法として活用できることが分かったこと。
4	よかったといえる点はない。対面での授業も実施できて適切なフォローができれば効果的な部分もあるだろうが、一度も対面での授業がないという状況ではプラスの評価はできない。
5	CADのような演習系授業をオンラインで実施することにメリットは感じられませんでした。
6	アプリケーション開発に必要な環境構築を、学生各自のPCに構築させることができたこと（従来だと演習室に環境が構築されているため、自宅に構築する学生が少なかった）

オンライン授業を実施しての問題点や課題（演習系：全学）
（視聴実態の把握・出席管理）
（学生の反応・理解度の把握）

1	一部の学生は、本当に講義を聞いているかどうか分かりづらい。
2	遅刻・出欠管理の質が落ちた。（人数が多くなると出欠・参加管理が困難になる）
3	Stream動画教材の視聴記録が取れず、実際の受講状態把握が困難。動画視聴状況が管理分析できるツール導入に期待したい。
4	規定授業時間での受講を実質化・意義あるものとする為に、規定時間内でのリアルタイム性のある質疑応答については方法や活用について更に検討が必要。
5	学生たちが実際にはどのように受講しているかが不明な点。
6	どうしてもその授業の時間内に実施する学生が少なく（1時限目の授業であったため）、学生の生活の乱れに繋がったような気がする。もう少しリアルタイムの授業を多めにした方がよかったかもしれない。
7	受講している学生の様子が把握できない点。（カメラオフ・マイクオフの状況。こまめに声がけをしたが、まったく反応のない学生への対応が難しい）
8	一方向になりがちであること、受講生の反応が把握しづらいこと、改善策としては、何回かは顔が見えるオンラインや対面の機会を設けることが考えられる。
9	対面であっても必ずしも受講生の応答を捉え切れてはいたわけでもないが、オンラインでは尚更一方的になりかねない。ただし、理解度確認などの仕組みを取り入れることで、むしろ分かっていない箇所を学生と教員お互いが把握して進めるような発展が期待される。単なる説明の提供に終わらない達成度評価型の動的教材の開発が必要。
10	能力的（性格的）に授業や演習についてくることができない学生が浮き彫りになる。
11	対面授業では学生の様子を見ながら授業を進められるが、オンライン(オンデマンド)では授業中に学生が理解できているかを確認する手段がない(授業の最後に解かせるレポートの解答を見て初めて学生の理解度が分かる)
12	通信環境の問題やカメラの有無もあり、全員が顔出しできなかつたため、顔出しが固定メンバーになってしまい、授業中に全体の受講の様子を把握することが難しかった。そのため問題を板書で解きながら、指名して答えさせるようにした。前回の課題の提出内容を見て当てる学生をあらかじめ決めていたが、指名される緊張感もあって、当てた学生のほぼすべてが応答した。マイクのない学生とはチャットでやり取りした。
13	学生のわからない部分を理解するのに時間がかかる
14	学習意欲の低い学生にはむかない。演習課題の進捗を逐一確認することが難しく、問題に苦戦している状況をこちらから確認することが難しい。
15	設計製図の演習のため、対面のように進捗状況を都度確認することができないこと、更には学生がちょっとした点を質問したり、或いはこちらからコメントしたりときめ細やかなやりとりができないため、十分に学習できたか不安な点が残る。
16	課題の提出時間が真夜中になっている学生が多く、昼夜逆転していることが推測される。
17	オンライン授業に全く対応できなかった学生や、一貫して対面授業を希望した学生がいることは考慮しなければならないと考えます。（当該学生への丁寧な聞き取り調査など）
18	問題点：オンライン、対面以前に学習能力の低い学生への対応の仕方。学習意欲が著しく低下した学生への対応。レスポンスのない学生への対応。

(受講・通信環境)

1	<p>学生の受講時間帯がどんどんルーズになっていき、課題の提出などもルーズになってきていた。今年の状況の中で何でもありになってしまった点がある。受講ルールの厳格化と学生の側の通信環境、PCの準備などが必要。スマホで受講はそもそも無理がある。</p> <p>全員がPCとプリンタを持ち、通信環境が十分に整って初めてオンラインが成り立つと考える。</p>
2	<p>学生PCに依存した学習環境になってしまい、統一的な演習環境を整えられなかった点（本授業においては学生の対応力が高く、助けられた面もあります）</p>
3	<p>ワークショップで3名程度のグループによる演習には、teamsが向いていない。ZOOMのブレイクアウトルームを使用した。ブレストにはGoogleスライド、Miroの併用をした。</p>
4	<p>受け手側のネット・PC環境により講義画像の解像度に違いが生まれ、満足度に差が生じている</p>
5	<p>配布資料のアウトプットを学生に任せているため、手元資料の質に差が出ている点。</p>
6	<p>学生側のPCソフトの有無により、通常のプログラムが実施できなかった。</p>
7	<p>専用のソフト（Illustrator）を使用するので、自宅で使えない学生へのフォローに苦労した。</p>

(教材作成の技術的問題・教員負担の増大)

1	<p>WebClassにて課題を出題しましたが、やはり出せない問題があります。例えば、正誤判断、かつ間違いを修正する問題はできませんでした。記述式問題の採点には大変苦労しました。後半の課題には、PDFファイルを提出してもらいました。採点してから、スキャンして学生に返却しました。提出された課題の書式不備や、レポート枚数の違いなどで、学生への返却はかなり時間がかかりました。</p>
2	<p>基本的なアプリケーションの知識が乏しかったためか、課題の提出トラブルについての対応に追われた。</p>
3	<p>改善策としては、教材作成のマニュアル、システム活用のマニュアルの整備があげられる。</p>
4	<p>教員と受講生の双方がオンライン授業システムについてもう少し理解しているのが望ましい。特に、受講生は受講に必要な最低限の知識（メール・メッセージのやり取りの仕方、ワープロソフトを使用した文書作成など）について事前講習が必要。</p>
5	<p>名簿とレポートを出している受講者の名や数が合わず、正式な名簿が出るまで、出席管理が難しかった。Wi-Fi環境が整わずレポートが出せなかったという連絡が来たのが大夫後になってからだったので、しばしば成績評価のやり直しをしなければならなくなった。</p>
6	<p>授業準備の時間が増えた。</p>
7	<p>前半課題：フィードバックのための準備や時間が対面以上にかかり負担が増えた。</p>

(成績評価・試験)

1	<p>公正なテスト実施方法、テスト・課題の例年並みのレベルの確保（持ち込み可が前提となるため）、学生との信頼関係の構築、非常勤の先生へのバックアップ、状況把握が十分にできなかった</p>
2	<p>空間性の把握が模型で行えないため、スケール感に欠ける計画となった場合もチェックしづらい。</p>
3	<p>課題提出が計算結果の値のみとなってしまったため、回答のための作図、計算に用いる式、計算過程、単位などの妥当性を確認できなかったこと</p>
4	<p>定期試験の不正防止が問題。</p>

(その他)

1	対面にて指導できることが望ましい。オンライン対応となる場合には、より細やかなやりとりができる環境の整備が必要と考えられる。
2	③毎年 試験の評価30%として行っている就職面接実践で、学生全員へ個別のアドバイスをしておりましたが、面接実践と個別アドバイスができず残念でした。面接実践は、学生同士の情報交換としても有効だったため、情報収集や切磋琢磨する機会が減りました。学生にとって最も大事な就職準備時期の3年生へ、大学からの情報発信は重要で心の支えになると思います。
3	⑤対面では授業の度に、前回の復習を全員で実践方式で繰り返し習得できるように工夫をしておりましたが、オンライン授業では繰り返し動画を確認できるため、復習は課題として指示し各自に任せましたが、試験結果を見ると学生の努力は見て取れるものの、習得度は対面授業よりも劣るため、オンライン授業でも対面授業と同レベルの習得度上げる方法を考え対策を取る必要があると思いました。

オンラインでの期末試験実施の問題点（演習系：全学）
（不正防止のための工夫や作題上の問題点）

1	作問の工夫によると思われるが、オンライン（リアルタイム）試験実施時の不正行為をどのように防止するのか、ノウハウが不足していると感じた。
2	①数式など入力が大変ですので、対策として全て選択問題か番号記述問題にしました。②独立性と公平性を保つため、時間制限の設定、問題と答えをシャフルにしました。
3	回答を撮影して提出するのは一手間かかったりトラブル要因になり、また回答の様子を管理分析できないので、手書きで式や図を入力するような環境が導入できないか？
4	数学だが、答えを一義的に決める必要があり、問題の工夫が必要だった。
5	ノートを写真の収めて提出させたため、写りが悪い場合や見切れてしまっている場合があった。
6	ポータルサイトを確認しない学生たちが試験時間割を勘違いしていたため、何度も試験（追試・再試）を行うことになった。
7	②これまで見受けられた学生の努力が分かる解答（講師の説明まで記入する答案）は一切かなわず、個性や個人の努力が反映されない試験結果となり、評価が下がりました。

（資料閲覧）

1	対面授業をしていた頃は、持ち込み不可の試験を実施しているが、オンラインでは実施困難である。
---	---

オンライン授業の教育効果についての意見（演習系：全学）
（評価できる点）

1	従来型の一方的な説明教材がある程度出来たならば、それらは予習や復習のために利用して、本来の授業時間では不明箇所(正答率が低いなど)や質問への解説回答に充てるなどして反転授業的な方向に進んで行くのでは無いか。
2	学習履歴や理解度確認など授業の可視化は学生のモチベーション向上を促し、教員側の解説ポイントの把握などに重要なので、更にシステムとしての発展を期待する。
3	学生が、分からない箇所を何度も繰り返し学習できる点では、メリットがあると思います。（不正している可能性もありますが）例年よりも期末試験の1発合格者が多く出ました。
4	教育効果としては重要ですので、可能な限りオンライン授業と対面授業を組み合わせるスタイルを実現できればと思います。
5	1. 回線が良ければ、教室の黒板に板書より分かりやすくなります。声も座席によらずに届くメリットがあります。2. 繰り返し視聴できることが良いことです。3. 今回のオンラインには学生同士の連動がすくなくなっていますが、一部の学生が飽きちゃっていることにも否定できません。
6	企業がテレワークに移行している、日本デザイン学会はオンライン発表に移行していることから、オンライン授業でのプレストの重要性は高い
7	学生への個別のフィードバックを行うことで、オンライン授業の教育効果がより高まると思います。（もし、フィードバックがないと厳しい）"
8	タブレット共有による板書が見やすかったという学生からの意見がある。
9	プログラミングに関してはオンラインでも教育効果は変わらない気がする
10	大多数の標準的な学生に対しては、オンラインでも対面と同様の教育効果があるのではないかと思います。
11	理解度に応じて学生が個々に授業資料を確認できる点で効果はあると感じる（学生が自ら勉強する意思があればですが）
12	解説動画を繰り返し視聴可能な状態にしておけば語学のような反復的学修には適している。
13	悪天候（大雨、大雪、猛暑、厳寒等）や特別指導願対象学生等への対応としては、今後も部分的に取り入れてもよい可能性がある。反面、実技授業の本来の教育効果が得られない可能性が高い。（肉眼による運動要素の伝達や分析、他者との交流等の様子など）
14	繰り返し教材を活用できるオンラインでの学習方法は、学生個々人の努力次第で教育効果は変化いたします。
15	CAD で使用したソフトウェアは対面時と異なるソフトウェアを使用したため、一概に比較評価はできないと考えています。それでも繰り返し動画を見ることができわからない部分は見直せるという環境は、しっかり勉強したい学生にとって良かった部分もあるのではと考えています。また、コンテンツはせっかく作成したので来年度以降も活用できると授業負担が減って良いと考えています。
16	実験、実習以外はオンライン講義でも十分教育効果が達成できると思われる。
17	オンラインリアルタイム指導の際必須となる、学生からの事前課題提出の徹底されたため、スムーズに指導が可能となった。
18	例年の対面授業では、課題提出の遅れが常習となる傾向が強かったため、オンライン授業実施の方が、学生に'適度な緊張感'があって良い。

(二極化の顕在化)

1	オンライン講義という形式に、問題なく乗れる学生と乗れない学生の差が大きいと感じた。オンラインにより繰り返し視聴できることから対面講義以上に理解が深まっていると思われる学生がいる一方、目が届きにくくなっている分、対面講義時より一層ついて来れなくなっている学生も発生している。
2	座学の場合、対面授業に比べれば効果はかなり低くなると感じる。加えて、前述したとおり、能力的（性格的）に授業や演習についてくることができない学生が浮き彫りになるので、ある意味、学生たちに進路を見直す機会を与えることになると言える。
3	意欲のある学生については、時間を気にせずじっくり取り組める点で効果的だと思う。一方、意欲のない学生をその気にさせるのは、難しいのではないかと思う。
4	授業内容理解以前に受講率が低い学生については、個々の授業科目での対応だけでなく、学習履歴などを科目横断的にチェックして履修指導などにも活用されるべきだろう。授業内容とその指導と、学習態度等への指導をある程度分離することは、指導効果の向上として期待されるのでは無いか。
5	特に、本学の場合は対面授業で教育すべきだと確信した。
6	一方的な伝達の授業展開であり、対面授業に対しての教育効果より内容の伝わりが薄いと感じた。
7	オンデマンドの動画教材は、何度も見直すことができるという点で効果はあったようであるが、効果があったのは一部の学生だけだったように思う。
8	時間を自分で管理できる学生にとっては、通勤時間がない分、時間を有効に活用できる。また、自ら学習する主体性を身に着けられる点が一番大きいと思います。
9	遠距離通学の学生には良かったと思いますが、一人暮らしの学生には酷だったかもしれません。
10	全体としてみれば、「講義に参加した」学生に対する教育効果は例年並みにあったと思いますし、上位・中位学生の一部（やる気のある学生）については例年以上だったかもしれません。ただ、その効果を確保するため（例年並みの学びを実現するための）の手間が例年以上でした（オンライン講義が初めてだったので当然と言えば当然のことですが）。また「参加する気のない学生」のやる気を喚起することについては、例年以上に難しかった、というかできませんでした。

(対面授業の重要性)

1	対面での大学生生活を保証した上でのオンライン授業でなければ教育効果はない。オンラインで良しとするのであれば、大学の存在意義自体が問われる。
2	学習姿勢に課題のある学生にとってオンライン授業はプラスにならない。自己管理のできる状況を作る工夫をする必要がある。
3	映像視聴による復習が容易である反面、オフラインの素材（実地見学）や参考書を見なくなる可能性もある。PC機器を長時間閲覧することによる健康への悪影響もある。
4	学生と教員のインタラクションが難しい。特に理解度の把握がとても難しい。利点はあるが欠点もある。
5	実技や演習の部分に関しては対面と比較すると効果が乏しいことは否定できない。動きの指導、フィードバック、他者との交流を通じたコミュニケーションなど、対面でないと得られない要素は大きい。
6	演習科目は、対面が最も適していると思う。オンラインはあくまでも非常時の手段であると感じる。
7	数学の演習のため、本来は直接指導する必要がある。しかしそれができなかったため、この意味で授業自体の教育効果は著しく低いと言わざるを得ない（ただし授業の設定以外の点で、履修生が自主的に学習した点で教育効果は高かったと言える）。

オンライン授業をどのように活用しますか（演習系：全学）
（積極的利用）

1	毎年同じようにする解説などはオンデマンド教材などに落とし込み、生身の教員が何をすべきか工夫するところに労力をシフトする。一般的事例としては反転授業形式を基にした実施や改善。その際、システム的に学習履歴や成果を活用し、いかにして学生自らが学修するように仕向けるかを考えなければならない。
2	オンラインでのグループワーク、ブレスト、発表の重要性は高い
3	（主に学生向けに）繰り返し見れる点や、いつでもみられる点を活用して欲しいです
4	今年の教材をベースに、リアルタイムもしくは対面形式で個々に対応できればと思っている。
5	質疑応答なども可視化活用し、すなわち教員からの一方的な説明以外に、学生からの声を用いる事で、学修内容のみならず学修の意義(何の役に立つか)などへの興味喚起が出来ないか。
6	講義は復習も兼ねてオンデマンド、演習はリアルタイム（対面授業含む）形式で行うのがベター。
7	高学年対象のリアルタイムの指導は、少人数の場合対面と変わらない（むしろ学生に適度な緊張感と集中力が出るため好ましい）。
8	WebClassのテスト機能を使って、TOEIC対策など資格試験の自習用教材をクラス・学年などを問わないで全学生に公開するのはよいと思う。

（アーカイブ化・補完的利用）

1	オンデマンド動画を各自の理解度にあわせて復習に活用
2	対面授業が可能になった後には、正当な理由があって授業に出席できなかった学生にアクセス権を与えて受講してもらう。
3	理解度の異なる多様な学生への個別対応を容易にする方法の検討。
4	再履修者への活用。
5	夏期猛暑時の対応、冬季厳寒時の対応、特別指導願提出者への対応、集中講義のガイダンス等、様々なケースで部分的に活用可能と感じた。
6	①授業内容の統一②繰り返し学習ができる教材の配信③対面よりも時間を有効に活用できるため対面では組み込めなかった内容を取り入れ充実させる
7	出張時の補講や再履修クラスなどで利用できると思います。また、対面授業とオンライン授業に分類して講義を行っていくことを想定すると、手直しをしながら使用できると考えています。

（その他）

1	他大学での状況を聞くと、教員側の負担がかなり増えたようです。学生側の話も聞くと、積極的活用は、どうかと思います。
---	--

今後の授業に向けての要望や意見（演習系：全学）
（オンラインの積極利用・制度化）

1	CD学科のように演習型の授業が多い学科は、美大芸大系他大学の事例も参考にしたい。実演視聴と対面演習の組み合わせなど。
2	今回作成したオンライン授業のコンテンツを活用できるような仕組みを作って頂けると助かります。
3	学科ごと同じ科目の先生がワーキンググループを形成し、より質が高いオンデマンド授業資料作成ができればいいと思います。先生達が授業時間が節約され、学生の質問、問題解くへの指導に多く時間を分配できるようになるかと思います。またいい教育資料できましたら全国への展開も期待できると思います。あと学校側が如何に教材の著作権を保護するかという課題は残ります。
4	学習記録を科目横断的に利用した受講指導などへの組織的活用。

（対面授業・対面試験の拡大）

1	この授業に関係ありませんが、1年生が大学に全く愛着を感じていないと思われることが度々あります(例えば、休学したいという連絡が数件もありました)。早く大学に愛着を感じてもらえるように、1年生の登校日を増やして欲しいです。1年生は飲み会に行くなど感染リスクの高い行動はしませんので、登校させても問題が生じるリスクは低いと考えます。
2	演習とセットの授業はやはり対面を基本とすべき。リアルタイムでも、オンラインでは個別指導から漏れてしまう学生がどうしても出てしまう。今回は結果的に再試験を繰り返すなかで個別指導を行った。今回撮影した28回分の授業は今後再履修（今回は2名不適）に使いたい。
3	可能になり次第、対面授業を中心に進めていけば良いと思います。
4	授業だけを取れば、オンラインで対処することも可能である。しかし、大学教育は、授業だけに依らないところがある。
5	教室での友人との情報交換、地域・現地で感じる空気、教員との綿密なコミュニケーションなど、これらすべてが整ってこそその大学教育であるので、オンラインだけではその本質にたどり着けない
6	演習は出来る限り対面とする方が教育効果がいいと考えるため、どのように対面とできるか検討が必要と考えます。
7	1年生最初演習で、かつ設計製図の演習のため、他の設計演習よりきめ細やかな対応が求められるため、対面授業としていただきたい。そのような対応ができるよう環境をどの様に設定していくか課題としてある。
8	演習の授業の場合には、対面授業で学生全体を見回しながら、手が止まっている学生へ声がけしながら実施する必要があるかなと思いました。
9	出来るだけ英会話の授業では声だけじゃなくて。学生がお互いの顔・ジェスチャーなどを見ながら、感じながら、話したほうが自然だと思います。

（教員負担の軽減）

1	公平性を保ちつつ、教員の負担も減らす工夫が必要。学生とのコミュニケーション方法の確立も必要。
---	--

(情報共有・サポート体制)

1	次年度の著作権処理について、どうなるのかが非常に気になります。（今年度は特別に免除だと思いましたが）
2	新入生に対しては、オンラインシステムで受講する場合の基本事項（メール・メッセージのやり取り、システムでの受講方法（ログイン/アウト、レポート提出、テスト受講、自身の提出物の確認方法等）について講習を受けておく必要があると感じた。Q&Aを用いたりして対応したものの、個別対応が多すぎる印象を受けた。

(施設設備の充実・LMSの改善)

1	ZOOMを継続して使用したい。
2	動画教材の視聴記録、可能であればどのように視聴したか分析も出来るシステムの導入。
3	・学生の個人持ち受講端末に関する検討。図式を手書きで入力できる事も考慮頂きたい。
4	WebClassでの課題・問題の種類を増やしていただければと思います。建築CAD演習の授業も担当しています。WebClassでは、提出されるファイルの容量制限があり、結局Teamsで課題を提出させました。今後では、Teamsでの課題・テストをやってみたいと考えています。現在のバージョンでは、出せる課題・問題の種類がやや少ないと感じています。
5	試験問題の自動生成や、プログラムの処理が出来る学修支援システム。
6	学生の学修ポートフォリオや、授業に関する教育ポートフォリオ機能の深化。
7	いつ非対面授業になるか分からない状況なので、学生には100%パソコンを所有させるようにして欲しい。

(著作権問題その他)

1	Web授業（オンデマンド）に関しては、今後は大学テキストの出版社からのテキスト使用許可を簡単にとれるかどうか不明と思われる。今回も一部の会社からは使用許可申請書を提出させられたが、学生たちにどうやってテキストを買わせるかが問題になると思う。
2	特にございませんが、教務学生課、情報サービスセンターの皆様のご尽力に感謝いたします。

前期授業全体を終えての感想（演習系：全学）

1	オンライン講義そのものは、対面にはない良さもあると実感できた。来期もビデオ教材を使用したと感じた。ただそれを、対面講義の復習のみに用いるのか、さらに踏み込んで反転授業に用いるのか、一層の検討と準備が必要であると考えている。
2	Teamsを活用して、学生の質問回答には有効と感じており、今後も活用したいです。
3	学生側のPCソフトの有無により、通常のプログラムが実施できなかったが、結果的には、制作物など例年通りの質を保っている。
4	対面授業で質問を受ける事は殆ど無かったが、それに比べると今期はメール等での問合せがある程度あった。授業が終わってからアンケート等を実施するだけでなく、授業期間中の質疑等を活発化させていく必要性を感じた。"
5	座学部分はおそらくオンラインの方が教育効果が高いかもしれません。実習部分是对面の方がよさそうです。
6	今後は、欠席者対応や遠隔地からの受講等を考えると、対面とリアルタイム、あるいは対面とオンデマンドを併用する講義スタイルが標準になると感じた。
7	演習問題に対して、質問を受け付けて授業を実施したので、個人間でわからない点を集中的に勉強できたかと思います。ただし、学習意欲が低い場合には、ただTeamsを繋げているだけの時間になっているように感じます。
8	模型製作やPC操作など友達とおしによる情報交換で技術力が向上する場面が減った。（教員への質問数が格段に増えた）
9	対面授業を実施しているときは、週に1度行う演習では全ての学生と1度はコミュニケーションをとるように努めていたが、遠隔授業ではメールを送っても返事をしてこない学生もいて一部の学生とはほとんど交流できなかった。
10	オンラインツールの不具合、学生の通信環境・使用機器がまちまちなことから、オンラインによる個別対応、登校可能時期の個別対応があり、授業の進行に支障が出た。
11	私自身としては、オンライン授業を良くしようと、授業構成や配信アプリケーション、学生とのコミュニケーションなどを工夫できたと思います。一方で、授業が詰め込み過ぎになってしまい、もう少し余裕のある授業をしたかったとも思います。
12	オンライン授業は初めての経験であり、資料作成、オンデマンド表示、リアルタイムでの実習方法、テスト試行方法などにかなり戸惑った。途中で視聴を断念した学生に対する授業内容のフォローが思ったほど実施できなかった。
13	教員も受講生もWebClass等のオンライン関連システムを完全に理解していないままにオンライン授業がスタートしたため、スマホやPCの操作上の課題があった。レポートの提出方法はWebClassが効率が良い（ファイル指定、提出遅れへの対応、提出した際の通知メールを活用するとよい）ことが分かった。
14	1. 初めて担当科目ですので、スライドは1から作り、毎回の授業準備は授業時間の倍か2倍ぐらいかかっていました。2. 資料が作ってしまえば、これから授業手法も追及余裕が出てくるかと思っています。まだオンデマンドにしていけば来年度の授業流用もできます。より学生の質問に丁寧に答える余裕が出てくるかもしれません。
15	遠隔授業の不慣れへの対応として、本来ならば授業時間内に終わらすべき課題の改修時間にかなりの余裕をもたせたので、計算速度の向上促進には難があった。
16	苦労が多く、疲弊した。ストレスで带状疱疹になった
17	授業+演習科目なので、課題の採点に多くの時間を費やした。これまでは研究室の4年生に採点を手伝ってもらっていたところを、今回は全て一人で行ったので大変だった。来年もあるならば今度は学生の力を借りたい。

18	ビデオ作成が毎週一つの授業だけで3時間程度かかった。英語はテキストが学科によって異なるので、6コマあれば6種類を毎週作る必要がある。Web授業を行うのであれば、まずは学年をすべて共通テキストにするなど、テキストの選定を考え直すべきと思った。
19	対面授業を実施していた時より10倍くらい準備に時間がかかり大変だった。
20	課題の提出数が最低限の人が多かったが、対面であれば、その場で注意してもう少し改善できたように思う。
21	前期の準備等での疲れが、回答している今来ているような気がします。目の前のこと、自分のことで手一杯でした。
22	学生の授業評価は悪くないが1年生だけに修学の達成感をどう与えるか。
23	オンラインでも学生の一定の学習成果を見ることが出来たことに達成感を感じた。一方で、出席はしているが全く演習を取り組んでいない学生がいることが分かり、学生の学習環境の管理が課題であると感じた。"
24	学生の反応を確認するのが困難。対面と異なりフォローが困難
25	調査（フィールドワーク）の日程が済み難かったため、調査データ収集は後期へ延期したことに不安がある。
26	一度も学生に会うことなく終わってしまった。学生の置かれている状況は様々であったろうが、その情報が不足しており、対応しきれなかった部分があったように思う。
27	対面エスキスは必要であるが、全体発表はオンラインで代替できる可能性がある
28	コミュニケーション（意思疎通）がオンラインでは十分とれないため、学生・教員相互にストレスを感じたと思う。
29	学生・教員とも負担が大きくあった。しかし、対面でないためきめ細やかな指導や質問など相互のやり取りができなかった
30	オンライン授業とオンライン試験の実施は、突然の新型コロナウイルスによりやむを得ない最善の対策だと思います。
31	全体の試験結果が予想よりやや高かったため試験の実施法について不安は残るが、アンケートの項目別回答や自由記述から判断する限り、概ね順調に実施できたと思われる。ただし、教材の作成には通常の2~3倍の時間を要した。
32	オンライン授業を支えていただいた職員の方々にお礼申し上げます。